

第21回 唐津市子ども・子育て会議 会議録(要旨)

○開催日時

令和7年11月10日(月) 午後3時～午後5時10分

○開催場所

唐津市役所5階 503・504会議室

○出席委員

山口委員(会長)／浦元委員(副会長)／岸本委員／保利委員／石田委員
前川委員／林田委員／中村委員／古藤委員
(着席順) 伊東氏／堤氏(議長が必要と認める関係者)

○議題

- (1) 令和6年度子ども・子育て支援事業計画実績について(報告)について【資料1】
- (2) こども・若者アンケート結果について【資料2】
- (3) 唐津市こども計画(仮称)骨子案について【資料3】
- (4) こどもの意見聴取実施内容について【資料4】

○内容(要旨)

<資料の確認> 資料1～4

<部長挨拶> 本年度2回目の会議となる。本日は8月に行ったアンケート結果や骨子案をお示ししたい。計画策定では、委員各位のご経験などに基づいたご意見をいただくことが欠かせない。本日の会議も充実した議論の場となることを願う。

<会議成立の確認> 委員12名中9名出席により会議成立(+関係者2名出席)

<委員自己紹介> 古藤委員が初参加、自己紹介。堤氏が初参加、自己紹介。

<会長挨拶> 前回の会議で若者アンケートについて話し合った。その結果が今日報告となる。また、骨子案の提示がある。骨子案はとても重要であり、活発なご意見をいただきたい。

<以降、会長により進行>

<議題>

- (1) 令和6年度子ども・子育て支援事業計画実績について(報告)について【資料1】
<資料により事務局から説明>

【質疑】

（会 長）放課後児童クラブの待機児童はどうなっているか。

（事務局）現在、浜崎小学校区と成和小学校区に待機児童がいる。前者に26人、後者に2人となっている。

（会 長）浜崎は人口が増えているエリアかと思うが、放課後クラブを利用することが難しい状況か。

（事務局）市全体では人口が減っているが、東の方は増えている。放課後児童クラブの利用は、毎年、夏休みに向かって希望者が増え、夏を過ぎると減る傾向。しかし、浜崎小学校区は最近では夏休みが過ぎても利用が減らない傾向となっている。民間事業者の協力により実施個所は増えており、引き続き対応を図りたい。

（関係者）資料1の「量の見込み」と「確保の方策」の違いは。

（事務局）「量の見込み」は人口推計等を基にしたニーズ、「確保の方策」は供給量。

（関係者）どのようにニーズを計算したか。また、ニーズと供給量は同数になるのか。

（事務局）国の指針に基づき計算をした。主に人口推計や過去のサービス利用実績を基にニーズよりも供給量が多くなるように設定している。

（会 長）ファミリー・サポート事業は供給量よりもニーズが多くなる実情で、有償ボランティアの担い手を増やすことが課題だろう。

（2）こども・若者アンケート結果について【資料2】

<資料により事務局から説明>

【質疑】

（委 員）3000の依頼で965の回答、32.2%の回答率は、「よく答えてくれたなあ」という印象が大きい。これだけ多くの質問によく答えてくれた。回答者に記念品等は渡したのか。

（事務局）無作為抽出であり、記念品等は渡していない。

（会 長）若い方との会話で、経済的に苦しく、結婚ができないという話を聞く。集計結果にも経済的な負担に対する意見が表れていると感じた。また、パートで生計を立てている人が多いという日ごろの印象があるが、アンケート結果には表れていない様子。

<他、特になし>

（3）唐津市こども計画（仮称）骨子案について【資料3】

<資料により事務局から説明>

【質疑】

（会 長）構成案を見ての意見はあるか。今回の計画では、「こども・若者」が増えるところとなるか。

（事務局）そうである。ライフステージを通じ、こども・若者を含めた施策を掲載して

いくことができると思う。

(会 長) アンケートの結果・骨子案も含めて、委員一人ずつ意見や感想をいただきたい。

【質疑・感想】

(委 員) 若者サポートステーションが唐津市にできたと思うが、こどもに対する支援について、県との協力体制はできているか。

(事務局) 現在、市では18歳までのこどもを中心に貧困の支援など行っている。必要に応じ、県の事業の案内や要保護児童対策地域協議会に高校・特別支援学校の先生に入ってください等、地域連携を行っている。

(委 員) アンケートの結果を見ると、コミュニケーションを取れない子が引きこもりがちになる傾向があると思う。通信制の学校に行っている人が増えてきた。学校になじめず通信制を選ぶ人が増えているようにも思われる。コミュニケーション能力を高めるサポート、支援がもっと増えると貧困対策や引きこもり対策になると思う。

アンケート結果を見て、改めて感じたことが多い。コミュニケーション能力は小学校の不登校なども関係あるので、幼児期の子育ても大切だと再認識した。

(委 員) 回答者は意外と多かった。3割の回答はすごいという印象。現在の生活に満足されている方が多いと感じた。また、若者は地に足がついていて、自分自身をよく見ていると思った。

(委 員) 小学生・保育園のこどもがおり、ありがたいと思うことが多い。コロナ渦で子育てサロンの参加や人との交流ができず、家に引きこもり、精神的に辛い時期もあったが、その後こども食堂やこどもに対する支援が整い、自分の小さい頃と比べて恵まれていると思う。それでも引きこもりなどあるのは、どこに原因があるのかと思う。

(関係者) 数字として状況の可視化をすることは大切だ。支援の場所等はあるが、それを作るだけで支援が必要な人に届くのだろうか。市報、家族などからの情報入手が多いとの結果から、そういったところから必要な人に情報が届けば利用が広がるのではないかと思った。

(関係者) 質問がある。まず、アンケートの目的と今後の計画策定のスケジュールはどうか。

アンケートの結果が骨子案のどこにどのように反映されるのか。

アンケートで唐津独自の質問はどの項目か。

自分は唐津市の総合計画にも携わっているが、今後の課題を考える上で、

旧市街と旧郡部の融合が大事な視点だと考えるが、居住区ごとにアンケート結果を確認できるのか。

県や他市・他町、先行してこども計画を策定した自治体のデータ、過去の唐津市のデータとの比較は可能か。

骨子案について、こども大綱では3「当事者への支援」となっており、構成案では、第6章「・・・子育て当事者にやさしい社会づくり」になっているが、この言葉の違いの趣旨は何か。

構成案第6章2に「保育支援」という言葉がないのはなぜか。

委員に配布された計画が白黒で見にくいため、カラー印刷でよいと思う。クロス集計の見せ方に関して、P43「こどもを欲しいという気持ちがない理由」を聞いているが、選択肢に「すでに希望の数のこどもがいるから」があるので、その人を除いて必要な環境や支援の検討にもっていければよいと思う。

(事務局) 資料について、元原稿はカラーだったが、事務の都合上、白黒の印刷になっていた。計画作成の時には見やすさをより意識して記載したい。

アンケートの目的について、16～39歳の若者を対象にしたアンケートは実施していなかったため、若者の現状を把握するために行ったもの。数値上、全国より良い数字が出ているところもあるが、この数字を基にこれからさらに分析を進める。既に行っている政策は計画に掲載するが、分析の結果、唐津市の強み弱みを把握していくようにできたらと考えている。

居住区別の把握について、こどもの数が旧市街、旧郡部で差があり、さらに地区を細分化してデータをとってもエリアごとに支援を分けることも難しいため、居住区の設定を設けず、唐津市全体のニーズの把握をするようにしたもの。

唐津市独自の設問について、居住継続の意向や希望が持てない理由などは、独自の設問。

他市との比較について、必ずしも近隣と同じ条件下での実施ではないためそのままの比較は難しい。むしろ国の同様のアンケート結果とは参考として比較できると思う。計画の指標を考える上で、国のアンケート結果を踏まえて考えることは必要だと思われ検討中。

保育支援について、第4章1「こどもの誕生前から幼児期」に保育に関する内容が含まれているため、第6章に「保育支援」として文言が入っていない。

「やさしい社会づくり」について、唐津市は総合計画や地域福祉計画でも「地域力」がキーワードとなっており、地域力を活かしていく取組を重視したいために、「・・・への支援」ではなく「やさしい社会づくり」と表現したもの。

(委員) 前回会議の意見はどのように反映されたか。アンケートの目的は回答される方は知っているのか。

(事務局) 問6-2「家族関係がうまくいかなかったこと」を追加。振り仮名はWEBアンケートの技術上難しいこと、振っても文字が小さくなりすぎてしまうことから追加していない。アンケートの目的は案内文に記載している。

(委員) 資産を増やすような金融教育を若者向けに行う予定はないか。

(事務局) 未来づくり研究会という若者の会で、お金の使い方のようなものを一部の取り上げたような話はあるが、資産を増やすような金融教育は現在行ってはいない。

(委員) 家に帰りたくないというこどものことを聞いたことがあったため、アンケートの結果を見て安心した。また、共働き家庭が増えていると思った。

(委員) 佐賀県内で住みたくない市ランキングを見かけた。その理由も書かれていた。住みたくない意見を聞き解決することで、住みたい市に変えることができると思う。私生活や登下校のボランティアをする中、民生委員の相談に同行したら46歳の子に関する70代の親の相談で、親がこどもの成長を妨げることもあると感じた。

(委員) 少し胸が痛い、重い結果である。アンケートの「自分には自分らしさがあると思うか」について、こどもは「自分らしさ」自体を考える機会がない。それを考え、互いに伝えあって、認めあうことを広げたいと日々考えているが、なかなかできていない。

P26の設問(外出しない理由)で、「人づきあいが苦手」が1番目、「何事も否定的に考えてしまう」と回答した人が2番目に多いが、学校現場でも実感として感じる。特に、「何事も否定的に考えてしまう」ことについて、家庭の影響も強いと思うため、こどもだけでなく、保護者へのケアの必要性を感じる。支援が必要な家庭に対しどのような支援があり、それをどう伝えていくか、皆で知恵を出し合い、やさしい唐津市を目指していきたい。

(委員) 闇バイトの疑似体験をカリキュラムに入れている自治体もある。こどもたちが犯罪に巻き込まれないようにしたい。また、こどもに関する計画にはこども家庭課だけではなく、他課も関係するだろう。県の会議では多くの課も参加しており、こどもに対する強い姿勢を感じたため、唐津市の会議においても、他課が参加すればこどもに対して本気で取り組んでいると感じられるのではないかと思う。

(会長) 委員の方々の意見を聞き、こども計画の方針・目標を説明した上で、骨子案を示した方が想像しやすいと思う。また、支援は大事だが、自立につなげていくことも大切。現状、支援のループになっており、課題や困難は連鎖していく。アンケートの結果の中でも経済的な問題が多かった。こども計

画の骨子案について、この中から抜粋して掲載する形か。どの部分を抜粋するか、委員の方々の意見を伺って進めたい。

(事務局) 次回の会議で素案を提示する形になるため、素案を確認し、委員の方々の意見を伺いたい。

(4) こどもの意見聴取実施内容について【資料4】

<資料により事務局から説明>

【質疑】

(会 長) 12月20日(土)に開催することを市の公式LINEで確認した。現在の応募状況はどれくらいか。

(事務局) 現在、応募がない。興味のある対象の方がいたら、声をかけていただきたい。

(会 長) 皆様にお声がけをお願いしたい。色んな年代の方が集まった方がよいと思うが、周知について、市報や公式LINE以外に事務局で考えていることはあるか。

(事務局) 今はホームページとLINEのみ。紙面の関係で、市報は掲載していない。他の周知方法は難しいと考えている。

(会 長) アイディアのある方はいるか。

(委 員) 東高校・西高校・南高校に依頼したらよいのではないか。

(事務局) 昨年度、高校生を対象に意見聴取した。高校生だけではなく、社会人を含めた年代に意見聴取できるとよいと考えている。

(委 員) 青年会議所、商工会議所青年部に依頼すると幅広い年代が集まるのでは。

(委 員) 家から大学に通っている大学生も多いため、唐津駅構内にポスターを掲示してはどうか。

(事務局) 検討したい。

(会 長) 応募が多数あった場合の対応はどのようなになるか。

(事務局) 幅広い年代の参加となるように調整する。

(会 長) 意見聴取の話し合いのテーマについて意見はあるか。

(委 員) 唐津市のよいところだけではなく、よくないところを考えたらどうか。

(委 員) 唐津市がどういう施設があったらよいか、どういう会社・給料があったらよいか等、テーマを具体的にすると意見が出しやすいと思う。

(事務局) 各グループにファシリテーターが付くため、幅広い意見が出るように努めたい。

(会 長) 追加で意見聴取に関するテーマがあったら、いつまで連絡できるか。

(事務局) 参加者の決定が12月1日のため、それまでに意見をいただければ、調整できる可能性はある。

(委 員) 周知方法について、はまなるメールを活用したらどうか。

(会 長) 日もないので、様々な手段を使用した方がよいかもしれない。

<議事終了>

<会長挨拶>長時間の会議参加に感謝したい。こども計画は初めて策定するため、試行錯誤の連続だと思う。引き続きよろしくお願いいたします。

<閉会>

<終了>

以上